

財団法人札幌市生涯学習振興財団設立趣意書

札幌市は、北海道開拓の拠点として創建され、先人の先見性に優れた都市計画に基づき、発展を続け、21世紀を迎えようとする現在、180万の人口を擁する大都市となり、いま、道都としての位置づけにとどまらず、国際的にも、「北方圏の拠点都市」として様々な課題に先行的な対応を試み、人々が充実した生活を送る最適な場としての「新しい時代に対応した生活都市」を目指しています。

これまで、札幌市は個性的で活力あふれるさっぽろを創造するため、札幌市教育文化会館の建設、札幌芸術の森の建設、札幌コンサートホール「キタラ」の建設等により施設整備や事業施策を展開し、「さっぽろの風土」に根差した、伸びやかで文化の素養あふれる札幌人を育ててきました。

一方、現代社会における国際化・情報化の進展、めまぐるしい技術革新、高齢化の進行、家族形態や地域社会の変化など、経済・社会の潮流や私たちを取り巻く環境は、絶えず変化しており、これらに対応するため、自らが主体的に学ぶ「生涯学習」の場が求められております。

また、札幌市においては行政改革の一環として、市の出資団体を見直し、芸術文化分野と生涯学習分野をそれぞれ一元化して整理し直すこととしており、その中で生涯学習事業の一元化として、従来、財団法人札幌市教育文化財団が担ってきた視聴覚教育の指導等を継承し、さらに、総合的・体系的な生涯学習事業を効率的に展開していくために、行政と市民のパートナーシップによる事業推進を図ることを目的として、札幌市が5,000万円を基本財産として寄附し、財団法人札幌市生涯学習振興財団を設立し、札幌市の地域における生涯学習の普及振興に資する事業を行うとともに、札幌市が設置する生涯学習関連施設の管理運営を行い、もって本道における生涯学習の推進に寄与しようとするものであります。

平成11年3月18日

財団法人札幌市生涯学習振興財団設立者

札幌市長 桂 信雄